

渋川高校東京同窓会役員各位

「渋川高校同窓会理事・支部長会議」議事要旨（2026年2月14日）

宮崎則行

1. 佐藤会長挨拶

- ・渋川高校奨学金は当初給付を10年間に限る予定だったが、それ以降も続けることが出来ることになった。
- ・毎年11月実施のキャリア授業、「iプログラム」は順調に推移している。
- ・少子化が劇的に進んでいる。懸案の「県立高校の在り方」の検討については、このあと特別に時間を設けて意見交換をしたい。

2. 中澤高校長挨拶

- ・2月12日から3年生は家庭学習に入り、25～26日の国立大の前期試験ほかに臨むことになる。
- ・今春の高校入試の志望状況だが、渋川高校では定員を40名減らした160名に対し、164名が応募し、4年ぶりに再募集をすることを免れたが、厳しい状況には変わらない。

3. 星名渋川市長挨拶

- ・人口激減で教育界は大きな転換期を迎えている。諸会議を経て、事態がよりよい方向に進むことを望んでいる。

4. 金子渡県議挨拶（渋川地区選出）・県立高校の統廃合はしっかり進めてゆかなければならない。皆さんの意見をしっかり聞きたい。

5. 特別セッション「渋高の今後の在り方」意見交換会

（佐藤会長）

「去年11月に『県立高校の在り方・北毛地区情報交換会』が開かれ、県教委のほか私と中澤校長が出席した。これについての県教委の立場は県教委主導でなく学校側が主体で将来の在り方を決めて欲しい、というもの。それゆえ、同窓会が学校側と一緒に県教委と協議してゆくことが大事だと思う。時を無駄にするととんでもない悲劇が起きるということを共通認識としたい。」

（中澤校長）

「県教委から校長にはこうして欲しいというような指示、要望はない。要するにそれぞれの地区で考えて欲しいということだと思う。」

（森田前同窓会長）

「10年前に沼田高校と沼女の合併構想が持ち上がった時も強い反対陳情が寄せられ大変だったようだ。慎重に議論を進めたうえで言いたいことを言って歩むことが大事だと思う。」

（星名渋川市長）

「県も心配している。先を見据えながらなるべく早く議論の場を作ることが大事。その上で実現できる形、土俵を県と一緒に作らなければならない。」

(宮崎東京同窓会長)

「仄聞するところでは渋川地区の中学生が地元の渋高ではなく沼高を受験したということだ。皆さんの意見を聞いて私も早く在り方の検討を進める必要があると考える。事態を軽く見てユデガエルになってはいけない。」

(津久井俊明渋高教諭—渋高 OB)

「去年の暮れ、同窓会と渋高勤務の渋高 OB による忘年会が開かれたが、その席で一刻も猶予がならない。5年以内に渋女と統合しなければならないという意見が多く出た。」

以上の意見を踏まえ、佐藤会長が渋女との統合について、「検討会を設置したいので一任してほしい」と発言し了承を得た。検討会には佐藤会長や中澤校長のほか、星名市長、金子渡県議などが参加して、渋女側の参加を呼び掛けたいとのこと。なお、検討会の座長には森田前同窓会長を想定しているという。

なお、この合同会議のあと佐藤会長から宮崎に電話があった。それによると渋女の同窓会長と2度電話で話したが、1回目は「渋女への進学志望者はまずまずなので、現状では検討会に参加する考えはない」という、そっけない返事が返ってきた。しかし2回目の電話では「検討会の参加について最初から排除せずに考えてみたい。」というやや前向きの話があり、佐藤会長としてもひとまずほっとしたとのことだった。

別件です。今年6月下旬(6月20日の土曜日が候補日)に予定している東京同窓会の総会に出席するように星名市長、金子渡県議にお願いしたところ、両氏から「公務がなければ出席したい」と前向きの答えを頂いています。

以上です。